

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 新居浜市立角野小学校  
(※正式名称を記載)

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒792 - 0841

愛媛県新居浜利中筋町2丁目7-10

E-mail smne-ad@esnet.ed.jp

Website http://sumino-e.esnet.ed.jp/cms/

幼児児童生徒数 男子 334名 女子 313名 合計 647名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「角野タイムトラベル～ふるさとに誇りをもち、そのよさを発信していける子の育成～」を活動テーマとして、ESDに取り組んできた。当校の校区には、別子銅山関係の産業遺産がたくさんある。新居浜の礎を築き、発展に尽くした先人がたくさんいる。現在、この別子銅山関係の遺跡を取り上げた町おこしの活動に官民合わせ、多くの人たちが熱心に取り組んでいる。しかし、子どもたちは、別子銅山関係の遺跡についてある程度知っているが、あまり関心がないという子どもも多い。

そこで、ふるさとに関する学習を全学年を通して、各教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動などの全教育課程において、地域の人たちの力を借りながら、自分たちのふるさとのよさをアピールすべく学習をしている。特に、3、4、5、6年生では、別子銅山の遺跡を実際に現地へ足を運び調べ、実物を見たり、関係者の話を直接聞いたりしている。そして、学んだことをまとめ、校内外で発表し、情報を発信するという活動を通して、「ふるさと角野」への愛着を深め、ふるさとのことを誇りをもって語り、将来に渡りふるさとや家族、友人を大切にする子

1.2.2

へと成長していくことを願っている。

ふるさと学習を中心としたE S Dの実践を通して次のような力の育成を目標とした。①学ぶ力・・・見学や資料をもとに課題を設定し、課題を解決するために必要な情報を収集し、情報を多角的に分析し、理解を深めようとする力。②自分自身と関わる力・・・新居浜の礎を築いた別子銅山について、体験的な活動を通して自らの生活を見直し、課題解決に向けて計画的に行動できること。また、自分の夢や希望を叶えられるように日常的に実践すること。③他者や社会と関わる力・・・自分が学んだことを様々な方法で発信し、ふるさとに対する愛着を深めていくこと。

具体的には、地域の伝統文化、文化遺産に係わる活動(ふるさと学習)を柱に、①学ぶ力を育てる学習、②自分自身と関わる力を育てる活動、③他者や社会と関わる力を育てる活動を行った。

### ①学ぶ力を育てる学習

それぞれの学年の発達段階に応じて、身近にある校区の別子銅山関係の遺跡や校区の自慢できる施設に見学に行ったり、実物に触れたり、質問し聞き取りをしたり、いただいたパンフレットなどの資料を使ったりして課題解決のための情報を積極的に収集し、意欲的に課題解決に取り組んだ。

3年生での見学先・・・内宮神社、瑞応寺、今井醤油、喜光地商店街、郵便局、温泉施設、公民館、コンビニエンスストア、山根体育館等、

4年生での見学先・・・マイントピア別子、広瀬歴史記念館、別子銅山記念館、5、6年生での見学先・・・山根収銅所、山根精錬所跡(えんとつ山)、山根グラウンド、別子銅山記念館等

### ②自分自身と関わる力を育てる活動

6年生が行っている愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部との交流は、高校生と一緒に校区の別子銅山の産業遺跡を巡るという活動である。今年で5回目を迎えるが、高校生による説明が様々な工夫されており、別子銅山の産業遺跡についての知識や興味を深めることができた。さらに、子どもたちが今も日常の運動や遊び、遠足などでよく利用したり、新居浜市民が新居浜太鼓祭りでも太鼓台が集まる様子を観覧したりする山根グラウンドが、先人の作務(ボランティア)で作られたものであるという説明を受けた後、自分たちも大切に使い、引き継いでいこうとする気持ちをもつことができた。

### ③他者や社会と関わる力を育てる活動

それぞれの学年に応じて、自分たちが調べ学んだことをまとめて、様々な伝達方法を考え、学級や学年の友達に発表し伝え合ったり、地域の人へ発信したりすることで、自分の地域のよさを発達段階に応じて理解することができた。そして、更に、新しい課題へと広がっていったり、ふるさとに対する愛着をもったりすることができた。4年生では、別子ライオンズクラブの方をお招きして子ども観光大使認定授与式の場で発表をし、「子ども観光大使認定証」をいただき、自分たちが調べてきた別子銅山のことやふるさと角野のよさを、これからもどんどん発信していきたいという意欲をもった。



①の写真  
(3年生今井醤油見学)



①の写真(4年生マイントピア別子にて削岩機体験)



③の写真(3年生学年発表)



③の写真(子ども観光大使認定証授与式での発表)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力

<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながり尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

紙芝居「たからの山」、マイントピア別子パンフレット、広瀬歴史記念館パンフレット、別子銅山記念館パンフレット、「百年の計、我にあり」DVD、ふるさと学習用補助教材「広瀬幸平」「伊庭貞剛」等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各学年の発達段階に応じて、主に1、2年生では、生活科の時間に、3～6年生では、総合的な学習の時間において実施できるように計画している。

1、2年生では校区のことを知る。3年生では景観に着目して別子銅山のことを学習する。4年生では新居浜の町を築いた人物や産業遺産を知る。5年生では別子銅山と環境の関連を考える。6年生では別子銅山のよさを発信する。身近な校区にあるという利点を生かした見学や聞き取り、調べ学習、地域の人材を生かしたゲストティーチャーによる授業などを積極的に計画し実践している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

公民館や地域との関わりを深めるために、管理職や学年主任が窓口となって学校と地域との関わりをコーディネートしている。また地域の方を授業時や行事のゲストティーチャーとしてお招きし、地域の方と子どもたちとの交流を図り、お互いの顔を覚えるようにしている。一度始めた企画は、教職員の異動があっても最低5年間は継続して行うように努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価は学期ごとに学校評価で、外部評価は年に1度保護者アンケートの形で実施している。各学年ごとに活動が工夫されているという意見や体験活動が多く、子どもたちが意欲的に取り組んでいるという成果が上げられた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

月1回以上の各学年の学年便りや学校便りで活動内容のお知らせや子どもの感想を紹介している。見学や体験活動の際には、その都度ホームページで活動の様子などの情報発信を行っている。別子ライオンズクラブの方へ発信することによる「子ども観光大使」事業は、マスコミなどでも取り上げられ、ふるさと出身者から注目を浴びている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

地域コミュニティの中心である公民館を仲立ちとして、愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部との交流や老人会、せつとう節保存会、えんとつ山保存会の方々と連携し、子どもたちの主体的、探究的学びのための支援協力を得ている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流やネットワーク形成については、今後の課題である。交流をするにあたり予算や経費についても見通しが立っておらず、検討している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

新居浜市の目指す子ども像は、「ふるさとを愛し、未来を拓く子」であるが、本校児童の心の中に、「ふるさとを知り、ふるさとを愛する心が芽生えてきている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

**3年生「たんけん、発見、みんなの町 角野」**

自分たちの町について、調査や見学をし、それをまとめることにより地域への愛着を深めることができる。

**4年生「角野タイムトラベル」**

角野の町と別子銅山との関わりを調べ、自分たちの生活と地域の伝統的なものとの関わりについて理解を深めることができる。

**5年生「別子銅山のこともっと知ろう」**

別子銅山の歴史を主として、旧別子の環境などの視点から調べ学習や聞き取りなどを行い、新居浜が発展してきた様子や、今後どのようにしてアピールしていけばいいのかを考えることができる。

**6年生「わたしたちのほこり 別子銅山」**

新居浜のまちの礎が別子銅山によって発展してきたことを知り、そのすばらしさを伝えることができる。